

5 望ましい指導者像

環境学習に対する関心や需要の高まる中で、今一番問題なのは環境学習の基本と理念を正しく理解し、さらに対象や問題に適応したプログラムの提供やインタープリテーションができる人材が不足していることです。その人材を育成するための組織やノウハウ、さらに人材育成のためのトレーナー的存在も不足しています。「環境の保全のための意欲の増進及び環境教育の推進に関する法律」の中でも人材の育成の必要性がふれられています。指導者として学ばなければいけないことは多くありますが、主に次のような項目です。

指導者の習得項目（例）

- ・ 環境学習の基本理念の理解のための学習
- ・ 環境学習の目指すものの確認
- ・ プログラムの果たす役割の確認と作成の手法
- ・ プログラムの目的を正確に伝える技術の取得
- ・ 指導者としての技術の取得と研さん
- ・ 全体と部分のつながりの理解のための学習
- ・ 話題の組み立てと、言葉の選択と使用法
- ・ 問題をわかりやすく伝える技術



どんなに優れたプログラムでも、指導者が十分に理解していなかったり、伝えるための技術がなければ、プログラムの効果は発揮されません。これからは指導者の資質も問われる時代です。プログラムの作成や実施に当たっては、十分に内容を理解し習熟して臨むことが大切です。



指導の心構え（例）

- ・ 言葉はゆっくりと明瞭に話す。
- ・ 参加者に考えてもらう時間を取りながら話す。
- ・ 専門用語や難しい言葉の使用は避ける。
- ・ 説明と質問を繰り返しながら行なう。（会話は双方向で行なう。）
- ・ 参加者が理解できているのかを確認しながら話す。

愛知県では、インターネット講座とフィールド研修を組み合わせた、「あいちエコカレッジネット」を開設しています。また、市町村、NPO、企業等でも、環境学習の指導に役立つ各種講座を開催しています。上述の「指導者の習得項目」や、「指導の心構え」を身につけるため、これらの講座等に積極的に参加し、色々な環境学習指導者と交流しながら環境学習の理解に努め、日々研さんすることが望まれます。